

ジェネリック医薬品変更可の取り組みと今後の課題

えひめ保険企画 若水ハロー薬局
◎ 福山 ・ 大道 ・ 塩出 ・ 植木

〔目的〕

2006年四月から国の医療費削減のため後発医薬品を推進しようとして処方箋様式が変更になった。その導入にあたり、若水ハロー薬局では現在採用している薬剤の内ジェネリックのある先発医薬品について評価しこれを推奨品とした。三ヶ月経過した時点での現状を振り返り、ジェネリック拡大強化のための課題を明らかにしていく。

〔経過・方法〕

	9月	10月
後発可処方箋受付枚数の割合	8%	5.50%
代替調剤の割合	2.4%	1.6%

ジェネリックメーカー5社に薬の情報提供を依頼した。後発品の選定については添加物、安定性、製剤的改良点など10項目について評価し約140品目を若水ハロー薬局の推奨品とした。そして後発品情報提供書を作成し、「後発品変更可」の処方箋がまわってきたときのマニュアルを作成した。

10月から11月にかけて一ヶ月間158名の患者様にジェネリック医薬品の認識度、使用しての満足度等アンケート調査を行った。

〔結果〕

ジェネリックについて「知っている」と答えた人は4割で、そのうち「詳しく知っている」と答えた人は2割程度だった。後発品への処方変更可で変えた人は全体で4割、負担割合の多い70歳未満の人の方が変えた人が多く、変えた後の金額に差を感じた人も多かった。70歳以上は負担割合が少ない人が多く変えても金額に差を感じない人の方が多かった。また高齢者は後発品に変えるのに抵抗があり体調が安定しているから変えないという人が多かった。後発品に変えて効果はすべての人が変わらないと回答、副作用についてもほとんどの人が今までと変わらないと回答した。

〔考察・まとめ〕

- ・ 在庫管理の問題や発注に時間がかかること、コストが安い分、他剤とデザインが似ていて間違いやすい等さまざまな問題点を抱えている。メーカーへの働きかけ等積極的に行っていく必要がある。
- ・ ハロー薬局での患者層は負担割合の少ない高齢者が多くジェネリックについての理解が不十分のため全体的に代替調剤の割合が低いことがわかる。
- ・ 後発品に変えた理由は薬剤師の説明を受けて変えた人が一番多かった。アンケート結果からわかるようにまだまだジェネリックの認知度が低く後発品に変更する人もさほど多くない。薬の専門家として安心して患者様にジェネリック医薬品を使用してもらえよう私たちがもっと積極的に薦めていかなければならないと思う。

